

# 図書館だより7月号

令和5年7月20日  
万代高校図書館

夏休みも間近。蒸し暑い日が多くなってきましたが、皆さんお元気ですか？先日、「夏休み中に読む本を選んで欲しい」というオーダーがありました。「高校時代の夏」という特別な季節のひとつをコーディネートさせてもらえるなんて！なんとも幸せなお仕事です。喜んでセレクトします。大歓迎です。

読書は体を動かすものではありませんが、その本を読んでいた時間を思い出すと、本の内容はもちろん、そのときの風の感触、聴いていた音楽、そばにいた人の顔、食べていたアイスの味、寝転がっていた畳の香りなどなどが一緒に、たとえ何十年経っていても体感として蘇ります。読書は五感で味わう「体験」だと、私が思う理由です。キャンプや海水浴に負けない、忘れられない体験の一冊を、図書館に見つけに来てください。

図書館司書 楠

## ○夏休みの特別貸出 7月10日～8月10日

貸出し冊数の上限が **10冊**になります。返却期限は夏休み明けの **8月25日**です。

○夏休み期間の開館日 開館時間は午前7時30分～午後5時です。

日付	開館	予定
7月		
24(月)	○	
25(火)	○	
26(水)	○	
27(木)	○	
28(金)	○	
31(月)	○	
8月		
1(火)	○	
2(水)	○	
3(木)	○	
4(金)	○	
7(月)	○	
8(火)	○	
9(水)	○	
10(木)	○	

日付	開館	予定
8月		
16(水)	○	
17(木)	○	
18(金)	○	
21(月)	○	
22(火)	○	
23(水)	○	



## 千の扉あけて 第24章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

### 『手紙屋 蛍雪編』

喜多川泰 著  
ディスカヴァー・トゥエンティワン

913  
キ



高校生の夏休みは、楽しいこともいっぱいですが、時間がある分だけ、色々と考えることもたくさんありますね。思うように勉強が進まなくて焦りを感じてしまったり、何のためにこんな思いをしているのか分からなくてモヤモヤしたり…私も、高校時代のそんな気持ちをよく覚えています。今回は、その頃に出会いたかった一冊をご紹介します。

……  
高校2年生の和花は、夏休みに入っても勉強に身が入らず焦っていた。そんなとき、兄に紹介された「手紙屋」という正体不明の人物。10通の手紙をやり取りすることで、和

花の人生を変えるという。半信半疑で始まった文通をきっかけに、和花の勉強への取り組み方が、心が、人生が大きく変わっていく。「勉強する理由」とは？そして「手紙屋」の正体とは…？

……  
私がこの本に出会ったのは大人になってからでしたが、もし今この本と出会ったあなたが高校生なら、これはあなたのための本です。主人公と同じ目線で、「手紙屋」さんからの一通一通の手紙を読んで、一緒に考えてみてください。読み終えたときには、あなたの目に映る世界が、そして人生が変わっているかもしれません。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！

## 新刊 PICK UP !

### ヨシタケシンスケの本



万代島美術館で7月29日から「ヨシタケシンスケ展かもしれない」が開催されます。夏休み、見に行く人もたくさんいそうですね。もちろん私も楽しみです。生徒の皆さんばかりでなく先生方にも人気の作家、ヨシタケシンスケさんの新刊が届きました。



#### 『メメントモリ』

ヨシタケシンスケ著 KADOKAWA

913 ヨ



「メメントモリ」とはラテン語で「いつか必ず死ぬことを忘れるな」という意味。形あるものは壊れ、始まったものはいつか終わる。皆が知っていても普段意識していないことを、メメントモリの姉弟が、三つの物語を通して教えてくれます。ヨシタケさん独特の視点で綴られる、クスッと笑えて可愛くて、少ししんみりしてしまうお話。

「人は何のために生きてるの?」という問いに、自分なりの答えを見つけられるかもしれない、深くて楽しい一冊です。

#### 『ぼくはいったいどこにいるんだ』 ヨシタケシンスケ著

ブロンズ新社  
E ポ



地図があれば、自分がどこにいるかが一目でわかる。町の地図があるなら、ぼくの部屋の地図は?地球の地図、銀河系の地図、宇宙全体の地図はある?そして自分の気持ちの地図、時間の地図がもしあったら?この世界で、迷ったときに「ぼくはいったいどこにいるのか」がわかるいろいろな地図があったら面白いですね。自分のいる場所を、普段は気づかない視点から見せてくれる、かなり哲学的な絵本です。